

2019 年度 学習公開・初等教育研修会 参加報告

城南小学校 片原 寛子

1 視察実施日 令和2年2月14・15日(土・日)

2 視察校 筑波大学附属小学校

提案授業：荒井 和枝先生 We Can1, Unit9 “Who is your hero?”

研究主題：既習を活かしながら、やりとりを通して英語の理解を深め、自分の思いを表現していく力を育てる授業づくり

研修テーマ：外国語活動・外国語科で育てたい資質・能力のあり方

講師：中村 典生先生(長崎大学)、肥沼 則明先生(筑波大学附属中学校)

入江 潤先生(明星学園小学校)

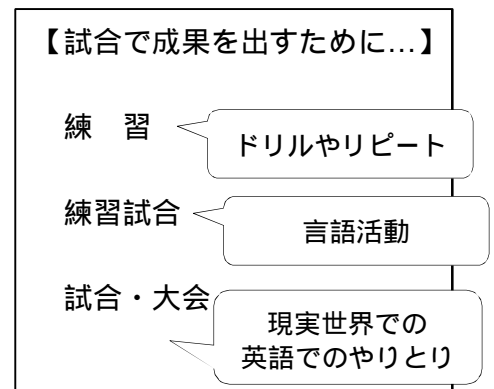
3 視察目的 小学校学習指導要領の全面实施をこの春に控え、外国語活動・外国語科の授業づくりや評価はどうしていくべきなのか考え、よりよい授業実践に活かす機会としたい。

4 研修報告

外国語活動・外国語科の授業づくりや評価のポイント、そして外国語活動・外国語科で育てたい資質・能力のあり方について、自分の中でも曖昧な点があったが、提案授業や講師の先生方のお話を聞くことで授業づくりや評価の具体的なイメージをもつことができた。

授業者の荒井先生は、この単元のゴールとして my hero について例文を参考にしながらスピーチすることとし、一人一人が my hero について絵や単語、写真を使った画用紙の絵本を作ることで形に残るようにしていた。全8時間中の5時間目ということもあって、my hero を紹介するためのいくつかのポイントとなる表現が練習されていたので、それらを使ってそれぞれの my hero を説明する準備がしっかりとできていた。自分の伝えたいことを伝えるためには、既習表現だけでは足りない部分が出てくるのはもちろんだが、荒井先生は全体で確認したり、机間指導で個別に話しかけたりして、児童の伝えたい気持ちを大事にしている姿が見られた。

研究協議や発表、講演を通して、外国語活動・外国語科の授業づくりについては、言語活動をポイントに授業づくりを行っていく重要性を感じた。言語活動は「目的・場面・状況をふまえて、実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動」と定義されているので、教師のあとに続いてリピートしたり、思考なしにゲームを通して話したりしているだけでは、言語活動にならないということだった。しかし、言語活動だけを授業に積極的に取り入れるだけでは資質・能力が伸びるわけではなく、ドリルやリピートのような練習も必要であることも話されていた。スポーツに例えると、右図のようなことになるそうだ。試合や大会で力を出すためには、練習だけが必要なわけではなく、練習をしたことを活かせる練習試合がないといけない。その練習試合が、授業における言語活動であるそうだ。また、例えば、単語や一文を教師に続いて言ってみる活動も、動物だったら、「海にいる動物だけ続いて言ってみよう！」とするだけで、思考が加わり、言語活動になると話されていた。こういった少しの工夫でできることも普段の授業づくりにも取り入れていきたい。



外国語活動・外国語の評価に関しては、英語は技能教科であることからやはりパフォーマンス評価が必要であることがわかった。また、評価は、指導を十分に行ってからすること、個人の力を最大限に伸ばしてから行うことなどがポイントとして挙げられていた。毎時間の授業でいつも評価をする必要はないが、同じ時間に、同じ条件の中、児童を評価することと同時に、どの教師も同じ基準で評価をすること、また子どもたちも何を評価されるのかということを知っている上で評価をすることも重要であった。他教科と同じように、外国語も、指導を十分にしてから評価をしていくことや評価基準を教師間で明確にしていくことは、今後、大事にしていきたいと感じた。